

第 14 回建物・構築物検討会 議事録

1. 日時 平成 20 年 9 月 24 日 (水) 10:00 ~ 12:10
2. 場所 日本電気協会 4 階 A 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 - 出席委員 : 久保主査 (東京大学), 北山副主査 (首都大学東京), 貫井幹事 (東京電力), 藤井 (北陸電力), 赤瀬 (東京電力), 阿比留 (中国電力), 細川 (四国電力), 船本 (九州電力), 野口 (電源開発), 川里 (日本原子力発電), 福島 (鹿島建設), 小川 (清水建設), 森山 (大成建設), 平子 (日立 GE ニュークリア・パワー), 吉賀 (三菱重工業) (計 15 名)
 - 代理出席 : 相澤 (東北電力・尾形代理), 平木 (中部電力・星野代理), 池内 (関西電力・伏見代理), 田中 (大林組・清水代理), 鬼丸 (竹中工務店・大宮代理), 田上 (東芝・中島代理) (計 6 名)
 - 欠席委員 : 斎藤 (北海道電力) (計 1 名)
 - 常時参加者 : 土井 (新潟大学)
 - オブザーバ : 松尾・藪内 (鹿島建設), 熊谷・田中 (大林組), 中村・近藤 (リサイクル燃料), 柳下 (東電設計), 杉山 (東京電力), 渡辺・高倉 (大成建設), 川西 (竹中工務店), 藤田 (清水建設) (計 12 名)
 - 事務局 : 糸田川 (日本電気協会)
4. 配布資料
 - 資料 No.14-1 第 13 回建物・構築物検討会議事録 (案)
 - 資料 No.14-2-1 鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程(案) (JEAC4618-200X) に対する分科会コメント及びその対応 (案)
 - 資料 No.14-2-2 補足説明資料 SC 構造に用いる鋼板厚について
 - 資料 No.14-2-3 SC-JEAC における鋼板厚 t に対するコメントへの回答
 - 資料 No.14-3 「乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針」見直し状況
5. 議事
 - (1) 定足数の確認

事務局より, 代理出席者 6 名が紹介され, 規約に基づき久保主査の承認が得られた。また, 代理出席を含む出席委員は全 22 名中 21 名で, 委員総数の 2/3 以上であり, 議案決議の定足数を満たしていることが報告された。
 - (2) 前回議事録の確認

事務局より, 資料 No.14-1 に基づき, 前回議事録 (案) が読み上げられ, 正式議事録とすることが確認された。
 - (3) JEAC4618-200X 「鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程」制定案の検討

日本原電川里委員より, 資料 No.14-2-1, 2 に基づき, 7 月 18 日の耐震設計分科会でのコ

メント及びそれに対する回答案の説明が行われた。また、久保主査より、資料 14-2-3 に基づき、回答案の中の SC 鋼板の板厚に関する規程本文及び解説の記載部分についての見直し案の説明が行われた。

審議の結果、一部修正を行い、検討会の回答として次回の耐震設計分科会に提出することとされた。

(主なコメント)

- ・資料 14-2-3 の解図-1 は、解説の説明文の内容「スケール則による換算後の値は概ね 40mm・・・」と整合していないのではないかと指摘されている。
資料 14-2-2 の 3 項の既往 SC 実験との関係を記載するか否かを含め、内容と整合するよう、修正する。
- ・資料 14-2-2 の 9 頁に Pa1,Pa2,Pa3 の関係図があるが、許容範囲はこれで正しいのか。7 頁の(1)式及び 8 頁(3)式などで説明でき、Ac の値によって変化し複雑な形状になるが、正しい。
- ・上記 Pa1,Pa2,Pa3 の関係図において、通常使用するスタッド径が 13~22mm であるのに対して、25mm で計算しているのはなぜか。
スタッドの設計はアンカーボルト指針に基づいており、同指針の径の範囲 9mm~25mm を考慮したものである。
- ・資料 14-2-3 で、規程の本文及び解説に、鋼板厚が 40mm を超える場合は「別途に確認を行う。」とか、「別途に検討を行う。」などと記載しているが、「別途」の内容を明確にする必要があるのではないかと指摘されている。
耐震設計分科会委員コメントに添えることを意図して記載したもので、40mm を超えたときは、何らかの対応を行うという記載が必要と考えた。
- ・本文で「鋼板厚は 3.2mm から 100mm までの範囲とする。」と規定しているが、3.2mm 未満について規定する必要はないかと指摘されている。
解説に、下限値 3.2mm が既往実験で挙動が確認されている最少厚さであると説明しているため、必要ない。
- ・資料 14-2-3 の本文の鋼板厚範囲(2.2.1-1)式のところに、「ただし、板材として壁、床に使う場合には、原則として 40mm とする。」というように書くと、建築側として問題はあるかと指摘されている。
それは、将来的に制約になる。
- ・作業会案では、本文に板厚を書いていないのに、解説にでてくる。これは、規程の書き方として適切でないと指摘されている。
板厚に対する規定が本文側に何らか必要ということか。
原子力規格委員会でも、そういう意見は予想される。
- ・「別途に確認を行う。」とか、「別途に検討を行う。」などの「別途」を削除してはどうか。また、「確認する。」も「留意する。」としてはどうか。
- ・結論として、規程としてのフォーマット上、鋼板厚さの記述が必要であり、本日の資料 14-2-3 を作業会でもう一度検討して、最終案を作成することとする。なお、文章に対するコメントは日本原電川里委員あるいは貫井幹事へ連絡してほしい。
- ・資料 14-2-3 で、板厚を規程の本文に入れることとし、解図 2 はもう少し例示を加えるなど一部修正を行い、検討会の提案として次回の耐震設計分科会に提出することとする。なお、原案については、主査と貫井幹事に一任させていただきたい。

(4) JEAG4616「乾式キャスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術指針」見直し状況

東京電力杉山氏より、資料 No.14-3 に基づき、中間報告として、JEAC4616-20XX「乾式キ

「ヤスク貯蔵建屋基礎構造の設計に関する技術規程」の目次構成案等について説明が行われた。
委員からの意見を受け付けた上で、第2編を追加して次回検討会で審議することとされた。

(主な意見)

- ・本日は総則及び第1編のみ内容を添付しているが、この構成方針であれば、第2編を追加して次回検討会で審議いただき、11月の耐震設計分科会に中間報告したい。
- ・意見があれば1週間以内に貫井幹事まで提出すること。

(5) その他

次回(第15回)検討会については、乾式キャスクに関する規程案を11月下旬の耐震設計分科会に中間報告するための内容確認と、「鋼板コンクリート構造耐震設計技術規程」の最終案の内容確認とを議題として、日本電気協会において平成20年11月13日(木)17:30~19:00に開催することとした。

以 上